

第 33 回運営小委員会 議事録

1. 開催日時：平成 29 年 3 月 1 日（水）9:15～12:00
2. 開催場所：日本原子力発電(株)本店 2 階 第 4 会議室
3. 出席者：勝村（JRIA）、高木・山本（東芝）、渡邊・阿部（東北大学）、内田・塚田・塙（JAEA）、目黒（元原電）、久宗・中野（原電）、赤峰（宮田副部長代理 関電）、長谷川・實重（東京電力）、寺地（INSS）、稲垣（中部電力）、西村（荘田委員代理 三菱重工）、長瀬（日立 GENE）、室屋（大阪大学）、河村・藤原（電中研）、大橋（オルガノ）、星野（電発）
【敬称略、順不同】

4. 議事

(1) 前回議事録の確認

庶務担当より既にメールにて回覧済みであることから、本委員会で承認し、追加でコメント等あれば庶務担当まで連絡することとなった。

(2) 平成 28 年度水化学部会運営小委員会委員選挙結果について

星野委員（選挙管理小委員会）より、公募により立候補のあった部会長以下すべての委員候補者に対し信任投票を行った結果、投票数 99 名、候補者全員が過半数以上の信任が得られ当選した旨、報告された。

今回の選挙により、部会長には渡邊氏（現副部長）が、副部長には石坂氏及び高木氏のほか、新たには久宗氏（現企画担当委員）が、監事には増田氏のほか新たに勝村氏（現部長）が就任する。また、担当委員には赤峰氏（関西電力）及び阿部氏（東北大学）が新たに就任する。宮田氏（現副部長）、会沢氏（現監事）及び星野氏（現庶務担当委員）については今期にて退任することになった。

本選挙結果は、本日午後の全体会議での報告の他、ホームページへの掲載にて部会員へ周知する。

(3) 平成 29・30 年度水化学部会運営小委員会担当委員について

星野委員（庶務担当）より次期運営小委員会担当委員及び体制案について以下のとおり提案があり、特に異論はなく満場一致にて承認された。

- ・ 庶務担当には現委員の長谷川氏及び塙氏のほか、新たに赤峰氏（関西電力）が就任する。
- ・ 企画担当には現委員の河村氏、寺地氏及び山本氏のほか、新たに室屋氏（現広報・編集担当）及び阿部氏（東北大学）が就任する。
- ・ 広報・編集担当には現委員の荘田氏及び長瀬氏のほか、新たに稲垣氏（現企画担当）が就任する。
- ・ 財務担当には引き続き大橋氏、藤原氏が就任する。

- ・ 定例研究会小委員会担当委員には山本氏が、将来構想検討WG担当委員には寺地氏が引き続き就任する。また、新規にロードマップフォローアップWG及び水化学ハンドブック改定WGを設立し、それぞれ企画担当の河村氏、室屋氏が兼務にて就任する。なお、定例研究会小委員会の名称は、他との統一を図り定例研究会WGに変更する。
- ・ 顧問には部会長の推薦により、引き続き内田氏及び塚田氏が、新たに会沢氏（現監事）が就任される。

また、水化学部会の規程類2件について、新規WGの設立及び上位規程となる「規則類管理規程」が制定（平成27年11月）されたことに伴い改定が必要であり、午後の全体会議での審議・承認を経て改定手続きを進める。

(4) 次回定例研究会について

次回幹事である埴委員（JAEA）より、第30回定例研究会の開催計画について提案があり、テーマは「水と材料の相互作用（廃炉に向けた課題と取組の現状）」とし、6月23日（金）、東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライトにて開催することで決定された。

5件の講演を行う計画とし、具体的な内容及び講演者について引き続き検討、調整を進めて行く。

(5) 2017年秋の大会 企画セッションについて

山本委員（企画担当）より、テーマについては、原子力発電所の再稼働、許認可等状況を踏まえ、水化学ロードマップに沿った話題に絞ることなく、前回までと同様、福島汚染水処理やロードマップ改定他現在の検討課題事項も含め柔軟に選定して行きたい旨の提案があり、次回も他部会との合同開催を前提に計画することとなった。

企画書提案の締切（5月下旬）を配慮し、4月中を目途に他部会への依頼等も含め講演内容を具体化する。なお、運営小委員会内の確認、承認はメールにて進める。

(6) 2016年度部会報の発行について

長瀬委員（広報編集担当）より、2016年度部会報（第8号）の発行が済み、2月14日にホームページに掲載を実施した旨報告があった。併せてご協力いただいた執筆者に対し、感謝が述べられた。

(7) 将来構想検討WGの活動状況について

寺地委員（WG担当）より、将来構想検討WGの活動状況について報告があった。

第2回検討WGを昨年12月に開催し、事前に実施したアンケート調査の結果を基に、水化学部会の理想像、理想を実現するためには何をなすべきかなど、将来のあり方について広く意見交換を行った。この結果を踏まえ、3月中旬開催の次回検討会では、具体的な活動目標や実施項目について議論を行う予定である。

(8) 水化学ロードマップのフォローアップ状況について

久宗委員（企画担当）より、ロードマップ改定の活動状況について報告があった。

ロードマップに新たに深層防護の観点からの課題を取り入れるため、前回運営小委員会の開催以降、これまで3回の打合せを実施し、原子力安全の専門家も加わり、深層防護での水化学の係わりについて議論を重ね、深層防護レベル各々に求められる水化学の観点からの防止対策案を整理した。内容については本日午後の定例研究会で発表し、広く意見を求める予定である。今後は現行ロードマップの各課題（SCC腐食環境緩和など）と深層防護の関係を整理していくこととし、次回打合せを4月下旬に開催する。

本改定作業については、次年度、新規に水化学ロードマップフォローアップWGを設立し、その中で継続して検討を進めて行くこととし、平成29年3月の完了を目指している。

(9) 学会標準「水化学管理指針」の策定状況について

久宗委員（企画担当）より、水化学管理指針の策定状況について報告があった。

BWR水化学管理指針及びPWR一次系水化学管理指針の2件とも、昨年12月の標準委員会への報告を経て、決議投票が12月19日から2017年1月24日までの期間にて行われ、いくつかの意見付き賛成投票も含む賛成多数で可決された。

今後、作業会にてコメントを検討、反映の上、その結果を標準委員会へ報告し、審議・承認を経て、公衆審査（90日間）に移行する流れとなる。発行に際しては引用データ等の著作権承諾手続きも必要であり、次年度内の発行を目指し、作業を進めていく。

(10) 日本保全学会保全ハンドブックの執筆対応状況について

久宗委員（企画担当）より、日本保全学会より執筆依頼のあった保全ハンドブック「第 編 第11章 水化学」の策定状況について報告があった。

日本保全学会より提示のあった当初の作成工程どおり、第一次原稿は既に事務局に提出済である。一部提出がまだのところもあり、評価員によるレビュー開始が遅れているような状況である。全体の進捗状況を見ながら作業を進めることとし、併行して、提出済みの第一次原稿の随所で見られる重複記載箇所の調整を4月に実施する予定である。

(11) 「沸騰水型原子炉一次冷却系の腐食環境の定量評価の現状と標準化のための課題（仮称）」技術報告書の作成状況について

山本委員（東芝）より、技術報告書の作成状況について報告があった。

今年1月に開催した第2回検討会にて、作成した報告書ドラフト版のレビューを実施した。構成や課題に対し挙げられたコメントについて検討、反映する

とともに、今後もレビューを重ね、2018年度中の発行を目指し、作業を進めて行く。

(12) 「核分裂生成物挙動」研究専門委員会準備会の活動状況について

内田顧問より、研究専門委員会の立ち上げ準備及び報告書策定状況について報告があった。

学会事務局他関係個所との調整も含め、設立に向け着々と準備を進めており、また、技術報告書の策定もほぼ終了し、次年度に入り次第、発行に取り掛かる予定（5月頃刊行）である。本技術報告書を活用し広く学会員等へ情報を提供し、研究専門委員会への加入を促し、設立を図って行く予定である。

(13) 「燃料デブリ研究専門委員会」の活動状況について

高木副部長より、核燃料部会を筆頭に昨年6月に設立された「燃料デブリ研究専門委員会」の活動状況について報告があった。

本研究専門委員会は、1F廃止措置に係わる燃料デブリ関連の知見やデータを調査・検討し、今後の廃止措置の取り組みや廃止措置で得られる経験をシビアアクシデント研究へ反映するための課題の整理と提言を行うこと目的とされている。約60名のメンバーで構成されており、現在水化学部会からは6名が参加している。事故進展、デブリ性状及び戦略の3つのタスクチームを設け活動されている。これまでの活動では調査テーマに応じた講演会や研究に対するニーズのアンケート調査などが行われ、次年度はタスクチームを中心とした委員会報告書の作成作業が予定されている。

また、事故進展タスクチームのメンバーになっている實重氏（東京電力HD(株)、水化学部会員）より、委員会報告書作成の進め方について紹介があり、報告書では「燃料デブリ性状」及び「事故進展」に関する研究課題を言及する計画とされ、2018年2月の完成を目指し作業を進めていく予定である。

(14) AWC 2017及びNPC 2018の開催について

高木副部長より今年9月に開催されるAWC 2017（開催国中国）について、また、渡邊副部長より来年9月に開催されるNPC 2018（開催国米国）について、開催スケジュール等の紹介があった。

AWC 2017については、開催案内がホームページに掲載されたことから、学会メール配信サービスを利用し、広く学会員へ案内を発信することとし、庶務担当にて手続きを進める。

(15) 平成28年度水化学部会会計報告について

大橋委員（財務担当）より、平成28年度会計及び平成29年度予算について説明があり、承認された。

なお、平成28年度会計については、HWC標準に係る技術報告書の発行を当初計画の今年度から次年度に変更したため、当初予算より支出実績が低減となっている一方、次年度予算には、本変更分の他、新たな2件の技術報告書作成費を計上している。

(16) 平成 28 年度 水化学部会全体会議資料について

星野委員（庶務担当）より、午後開催の全体会議報告資料案について提案があり、承認された。

(17) その他

藤原委員（広報・編集担当）より、NPC 2014 札幌の抽象集及び論文集に関して、いくつか外部から委託販売の依頼があった件については、学会事務局と相手先との契約が既に済んでいる旨、報告があった。

勝村部会長より、日本アイソトープ協会が発行の Isotope News に、「放射線化学事始め」と題し、連載記事 5 回（2016 年 6 月号から 2017 年 2 月号の隔月号）を投稿している旨、紹介があった。

次回運営小委員会は、平成 29 年 6 月 23 日（金）の午前、東京大学柏の葉キャンパス駅前サテライトにて開催する。

以 上